基本理念

一、私たちは〝地域医療支援病院〟として、医師会会員ならびに各医療機関との医療連携をもとに、高い医療レベルを堅持、地域医療の向上に貢献します

二、私たちは患者の立場を尊重し、その信頼と期待に応え、誠実に〝心ある医療〟を心がけます

三、私たちは、変革する医療情勢に対処しながら、地域住民の福祉・保健医療サービスの確立に努め、医療センター内外に積極的に活動します

四、私たちは、職員としての〝誇りと責任〟を自覚し、つねに自己研鑽を重ね、互いに協力して、医療センターの発展に努めます

医の心

患者さんの悩み、苦しみ、痛みに共感する心
患者さんに慰めの手、いたわりの手が自然に出る心
患者さんのために尽くす心
患者さんに真実を伝えて納得同意を得るように努める心

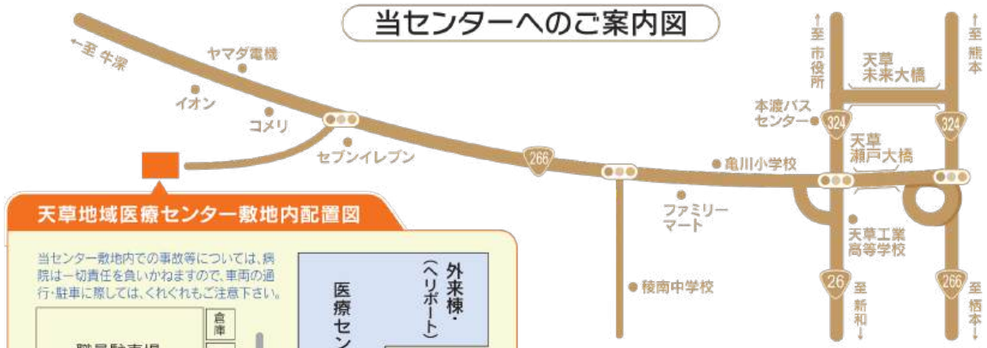
外来診療一覧表

令和6年5月現在

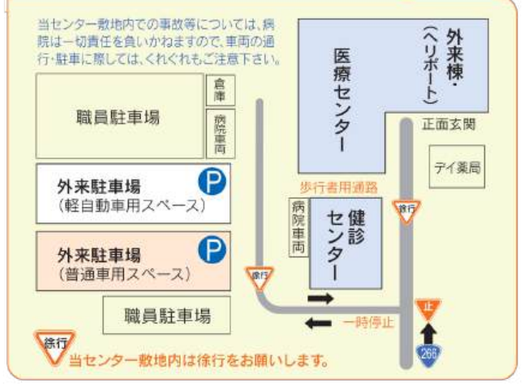
	診療科目	月	火	水	木	金	受付時間
一般外来	脳神経外科	坪田・斎藤			坪田・斎藤		7:30～11:30 ※急患については24時間対応
	外科		吉仲・髙田・坂田		原田	原田・吉仲・髙田	
	整形外科	大江・堀内		堀内・石松・富野		大江・山田	
	循環器科	永吉		永吉・西原		永吉・西原	
	消化器内科			坂井(*1 馬見塚 小泉)	河野		
	代謝内科	守田	守田	宮川	宮川	(再診のみ)	
	放射線科		担当医				
	泌尿器科	陣内	山中		野尻		
	呼吸器内科*3		担当医(熊本大学病院)			担当医(済生会熊本)	
	総合診療科	谷口	(再診のみ)	松本	鶴田	(再診のみ)	
小児科外来	小児科*2	髙橋 水元	野中 髙橋	水元 野中	髙橋 野中	水元 髙橋	8:00～11:30 13:45～16:00 ※急患については24時間対応
特殊外来*4	神経内科	月4回 土曜日					予約制
	リウマチ膠原病科	月2～3回 土曜日・第4月曜日					
	消化器内科	月2回 土曜日					

*1 消化器内科の水曜日は隔週交代での診察となります
*2 小児科は上段が午前担当医、下段が午後担当医の診察対応の表記となります
*3 呼吸器内科は非常勤で原則、午前中の受付・診察となります
*4 月・土曜日の特殊外来については、予約制となりますので、電話にて予約をお願いします

当センターへのご案内図



天草地域医療センター敷地内配置図



一般社団法人　天草郡市医師会立
天草地域医療センター
院長　吉仲 一郎
〒863-0046 熊本県天草市亀場町食場854番地1
TEL 0969-24-4111（代表）
FAX 0969-23-4086　URL http://www.amed.jp

天草地域医療センター広報誌
あまいせ便り
2024.May
vol.17
【編集・発行】
天草地域
医療センター
新聞広報委員会



No Man Alone
天草地域医療センター
1992



SNS時代に生きる

院長　吉仲　一郎

日々、患者さんと向き合う中で、SNSが私たちの生活に与える影響の大きさを実感することが増えた。十数年前までは、医療情報といえば医師や専門家からの発信が主流だったが、今では誰でも気軽に情報を発信できるSNSを通じて、患者さん自身が医療情報を得られるようになっている。

これは患者さんにとって、従来の情報格差を解消し、主体的に自分の健康と向き合えるという大きなメリットがある。しかし一方で、玉石混淆の情報が氾濫していることも事実であり、中には誤った情報や偏った見解に基づいた投稿も多く存在する。

私は常々、患者さんには情報源の信頼性を確かめること、そして鵜呑みにせず、最終的な判断は医療従事者に相談することを勧めている。しかし、SNS上での情報は拡散力も速く、一度広まってしまうと訂正が追いつかないケースも多く、患者さんの不安を煽ったり、誤った治療法を選択させてしまうリスクも懸念される。

医療従事者にとっても、SNSは情報発信の場として有効なツールとなり得る。しかし、発信内容には十分注意する必要がある。誤った情報や偏見に基づいた投稿は、患者さんを誤解させ、医療不信を招きかねない。また、個人のプライバシーに関わる情報や、特定の患者さん個別の情報を漏洩することは厳禁である。

SNS時代を生きる私たち医療従事者は、正しい医療情報を分かりやすく発信し、患者さんとの信頼関係を築きながら、質の高い医療を提供していくことが求められている。そのためには、日々の情報収集を怠らず、常に最新の情報にアップデートしていく必要がある。また、患者さんとのコミュニケーションを積極的に取り、SNS上での情報発信にも積極的に取り組むことで、患者さん一人ひとりのニーズに寄り添った医療を提供していきたいと考えている。

SNSは、医療従事者と患者さんをつなぐ架け橋となる可能性を秘めている。しかし、その恩恵を最大限に活かすためには、双方が情報の信頼性と倫理観を意識し、適切な使い方を心がけることが重要である。



天草地域医療センターは、これからも地域住民の皆様の健康を支える医療機関として、情報発信に力を入れるためにhome pageの刷新とSNSアカウントの開設を計画し、よりタイムリーな情報発信や患者さんとの双方向的なコミュニケーションを図りたいと考えております。

救急隊との合同救急症例検討会

外来看護師長　松尾　直子

令和6年2月22日（木）に天草広域連合消防本部救急隊との「合同救急症例検討会」を当院の大ホール「ヒポクラート」にて開催しました。

本会は、より良い救急医療の提供を目指し、救急業務における病院前救護の質の向上および充実・強化を目的に定期的に開催しており、コロナ禍を経て4年ぶり開催となったものです。

当日は救急隊員55名、医師12名（研修医5名含む）、看護師2名が参加し、救急隊から提示された症例について、担当医師により患者収容後の経過説明、質問事項に対する回答、ミニレクチャーが行われました。

まず初めに脳梗塞の症例が取り上げられ、当院が天草広域連合消防本部と地域トライアルに参加している脳卒中判定アプリ「JUST-7　Score」の有用性について救急隊から質問があり、早期に専門的治療を要する脳卒中の疑いがある患者を、適切な治療施設へ早期に搬送することの重要性を改めて確認し合いました。

次に、手指欠損創の症例においては話題が外傷全般にまで広がり、これも当院が天草広域連合消防本部と地域トライアルに参加している医療従事者間コミュニケーションアプリ「Join」について活発に意見が交換されました。これまでは電話による「声」だけでしか伝えられなかった情報が、「Join」を活用し画像や動画を伝送することで、外傷現場の状況や負傷箇所の状況が直感的に把握できると、参加した医師からも好評でした。外傷に限らず、12誘導心電図の伝送などを行うことで、搬送先の選定や治療開始までの時間短縮に活用できるなど、救急隊・医療機関双方にメリットがあると感じたところです。

最後に取り上げられた症例は急性心筋梗塞。天草地域の高度医療を支える中核病院として、また、急性心筋梗塞急性期拠点病院として、「天草地域で発症した急性心筋梗塞は、当院が必ず受け入れる。同時に複数人発生した場合でも必ず受け入れる。」と、担当医から救急隊に向けて発せられた言葉は、救急隊にとって非常に心強かったですと、消防の担当者も喜んでおられました。

新型コロナウイルス感染症感染拡大により4年ぶりの開催となりましたが、今後も地域医療を支えていくために関係機関と協力し連携を図りながら、より良い救急医療の提供ができるよう努めてまいります。







脳神経外科

脳神経外科部長
坪田　誠之(H12年卒)

脳神経外科医師
斎藤　大嗣(H30年卒)

脳神経外科は坪田、斎藤の２名で診療にあたっております。くも膜下出血、脳出血、脳梗塞、頭部外傷など緊急対応を要する疾患が多くを占めています。当科では、緊急手術や、急性期脳梗塞に対するt-PA治療が行えるよう取り組んでおります。他にも脳腫瘍や機能的疾患に対しても手術を行っております。超高齢の患者様や、状態の厳しい患者様も増加しておりますが、各々の希望・状態に合わせた医療を心がけ、日々の診療にあたっています。『天草全土の急性期脳疾患は全て診る』をモットーに24時間365日、対応しております。血栓回収術や脳血管内手術などの血管内治療を要する場合は、熊本大学などと連携をとり、また変性疾患など特殊な神経疾患に対しても神経内科専門施設と連携をとり、治療を行う支援体制が整っています。各種学会にも参加して、最新の治療の知見の獲得や、学会発表を行い、定期的に近隣の医療機関の医師と神経放射線カンファレンスを行い、症例検討を行うことで、常に質の高いエビデンスに基づいた医療を患者様に提供できるように日々努力しております。

【症例数・治療成績】

病棟は常に約30名前後が入院し、令和５年度の入院患者数は444名です。手術件数は68件で、主な疾患では脳動脈クリッピング術6件、開頭血腫除去術5件、慢性硬膜下血腫先頭洗浄術29件、水頭症手術10件、脳血管内治療2件です。全ての手術について、自然歴、治療方法、治療リスクなどを丁寧に説明し、慎重に手術適応を決定します。

循環器内科

副院長・循環器科部長
永吉　靖央(H9年卒)

循環器科副部長
西原　大貴(H23年卒)

循環器科医師
松田　崇秀(R3年卒)

2024年度は医師の異動により３名体制となりました。医師4年目の松田崇秀医師が着任し、フレッシュな雰囲気で新年度がスタートいたしました。人員減による医師負担増加はありますが、若さと明るさで乗り切っていただきたいと思います。

2023年の治療実績として160件のカテーテルインターベンション治療(経皮的冠動脈形成術139件、抹消血管治療21件)、62件のペースメーカー植え込み術を行いました。治療の中心は急性心筋梗塞などの虚血性心疾患です。これからも天草医療圏で唯一の24時間365日心臓カテーテル検査、治療可能施設として、迅速な治療で救命率向上を図っています。心臓リハビリテーションも重要な課題です。多職種連携を行い、より良い医療を提供できるように努力してまいります。

近年の話題として重症下肢動脈硬化症に対する吸着型血液浄化器（レオカーナ）の導入が開始されました。下肢閉塞性動脈硬化の治療としては薬剤治療のほかにバルーンやステントなど血行再建術が施行されてきました。しかし治療しても十分な効果が得られず、感染が併発することで下肢切断を余儀なくされる場合がありました（包括的高度慢性下肢虚血 chronic limb-threatening ischemia : CLTI）。レオカーナはLDLコレステロール、フィブリノーゲンを吸着することで血液流動性を改善し、難治性潰瘍を治療します。具体的には人工透析と同様の手技で週３回程度の施行が必要となります。重症下肢虚血の全ての方に適応できるわけではありませんが、治療にお困りの際はまずはご相談ください。

外　科

院長
吉仲　一郎(S57年卒)

副院長
髙田　登(S60年卒)

外科部長
坂田　和也(H19年卒)

外科医師
北村　文優(H25年卒)

外科医師
白石　裕大(H27年卒)

外科医師(非常勤)
原田　和則(S50年卒)

院長以下常勤５名、非常勤１名のスタッフ（院長：吉仲、副院長：髙田、外科部長：坂田、医師：北村、白石、非常勤：原田）で消化器（食道、胃、大腸、肝・胆・膵）疾患の外科診療はもとより、一般外科（ヘルニアなど）救急外科（交通外傷など）など多領域にわたり外科全般の診療を行っております。近年は300-350件程度の手術症例です。

当院は熊本県指定のがん診療連携拠点病院でもあり、癌手術は胃癌、大腸癌をメインに手術を行っております。

患者さんの負担を減らすために平成26年度から腹腔鏡下の手術を導入しました。腹腔鏡下手術は開腹手術に比べ傷が小さく、手術後の痛みが軽い、癒着しにくい、入院期間が短いなどの利点があります。悪性腫瘍では胃癌、大腸癌などを中心に行っております。良性疾患では胆石・癒着性イレウス・ヘルニア・虫垂炎などの大部分は腹腔鏡下で行っております。

癌の診療は外科治療に限らず、化学療法や緩和医療にも力を入れています。外来棟の２階に広くゆったりとした外来化学療法室があり、快適な環境で行えるようになっています。

開放型の病院としては、患者さんに最良の治療ができるように医師会の先生方としっかりとした連携を維持できるように努力しています。またより気軽に相談していただき、顔が見える関係が築けるように月１回の消化器症例検討会（臨床病理カンファレンス）を開催していましたが、新型コロナウイルス感染症のため現在休止中です。参加御希望の先生はご連絡いただければ幸いです。

毎週木曜日には消化器内科と、合同カンファレンスを行い手術症例などについて検討を行っています。また外科の病棟並びに術前カンファレンスを毎週木曜日に行っています。

天草地域の特徴としてご高齢の患者さんが多く、それぞれの患者さんの病態に応じた最良の治療法を選択するように引き続き心がけて日夜努力しています。

麻 酔 科

麻酔科部長
寺崎　秀平(H18年卒)

麻酔科副部長
増田　和之(S58年卒)

当院では年間約1400件の手術を行っており、そのうち麻酔科管理症例は主に外科、整形外科、泌尿器科、脳神経外科で1100件ほどです。ここ数年はコロナウイルス蔓延の影響もあり１割ほど減少していましが、コロナウイルスが５類に分類されてからは手術件数も以前とかなり近いところまで戻ってきています。この感染症が蔓延していた中で診療を控えていた患者さんが多かったのか、手術が2ヶ月以上待ちという診療科もあります。できるだけ効率的な手術室の運営を行い、待機手術までの時間を短縮していきたいと思っています。

少人数スタッフで出来る仕事は限られていますが、天草の皆さんが、安心して手術を受けられるように安全かつ苦痛の少ない麻酔を行うように心がけていきます。



整形外科

整形外科部長
大江　浩一郎(H4年卒)

整形外科副部長
堀内　秀俊(H11年卒)

整形外科副部長
山田　正寿(H13年卒)

整形外科医師
石松　憲明(H24年卒)

整形外科医師
富野　航太(H31年卒)

整形外科では令和6年4月に整形外科専修医の髙木寛先生と交代で富野航太先生が赴任され、現在指導医3名、専門医1名、専修医1名の計5名で診療を行っています。

定期外来日は、(月)(水)(金)の午前中で、定期手術日は(火)(木)で調整しています。他科の手術が入ってない時間を選び各部署と相談の上、ほぼ毎日手術を行っています。また、土日祝祭日でも、救急患者さんや緊急手術に24時間対応出来るように、2人体制でのローテーションを組んで対応しています。

昨年度も手術症例は年間600例越えでここ数年は安定した症例数で推移しています。高齢者の大腿骨転子部骨折、大腿骨頸部骨折、各種外傷の治療から股関節、膝関節等の変性疾患に対して除痛目的での全人工関節置換術等多岐に渡る手術を行っています。また手関節や膝、足関節面の骨折に対しては、症例により関節鏡を併用した手術にも取り組んでいます。高齢者の大腿骨近位部骨折に関しては、麻酔科の先生のご理解もいただき準緊急手術と位置付け患者さんの全身状態が良ければ可能な限り早期に観血的加療を積極的に行っています。手術室が3部屋しかないため、手術が入らず、以前は手術室でやっていたピンニングを透視室で行ったり、広範囲外傷を局所麻酔のみで救急外来で処置を行ったりと色々工夫をしてやり繰りをしています。

去年も紹介させていただきましたが膝関節痛に対する保存療法として令和3年5月に認可を受け、同年8月より整形外科分野で「PRP(多血小板血漿)療法」を導入いたしました。「PRP療法」とは、患者さん御自身の血液から治療に必要な成分を抽出し、痛みや炎症の強い部分に注射する方法です。当センターでは変形性関節症に用いられている「APS(自己蛋白溶液)療法」が可能となりました。まだまだ症例数が少なくご興味のある患者さんがいらっしゃいましたら是非ご相談下さい。

脊椎外科と手指の再接着に関しては当院には、専門医が不在のため、熊本市内や八代市の専門医の先生へお願いしています。

整形外科の取り扱う疾患は多岐に渡りますが、天草圏内の患者さんの事は天草で治療を完結出来るよう地域の先生方との連携を大切に迅速な対応を心掛けております。外来時間外の救急患者さんの受け入れに関しては、迅速に患者さんの診療に当たれるようにスタッフの事前調整を行う必要があるため、電話連絡を頂けると助かります。ご理解の程よろしくお願いいたします。

消化器内科

消化器内科部長
坂井　良成(H14年卒)

消化器内科医師
馬見塚　大悟(H29年卒)

消化器内科医師
河野　亮介(H31年卒)

消化器内科医師
小泉　大海(R2年卒)

当科は、土曜日特殊外来として、熊本大学消化器内科から非常勤の派遣が始まり、現在も月2回ではありますが、継続しています。常勤医としては、平成21年4月から派遣が始まりました。1年目は2人体制でしたが、平成22年からは3人体制、平成28年より、4人体制で診療させて頂いています。診療内容は、消化器疾患を外科と連携し行っています。

消化管疾患は、急性胃腸炎や出血を伴う胃・十二指腸潰瘍、大腸憩室出血、虚血性腸炎などの緊急疾患をはじめ、上下部内視鏡検査・NBI拡大内視鏡検査により食道・胃・十二指腸・大腸の腺腫や癌、胃十二指腸潰瘍、炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎やクローン病など)等の診断並びに治療を行っています。大腸ポリープ切除や早期の食道癌・胃癌・大腸癌に対しては内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)や内視鏡的粘膜切除術(EMR)などの内視鏡治療を行っています。また、食道静脈瘤の破裂時や破裂予防の内視鏡的硬化療法(EIS)・内視鏡的静脈瘤結紮術(EVL)や胃潰瘍、十二指腸潰瘍からの出血時の緊急内視鏡的止血術も行っています。

肝疾患については、急性肝炎や肝膿瘍、肝細胞癌破裂などの緊急疾患をはじめ、慢性肝炎、肝細胞癌などの精査・治療を行っています。C型慢性肝炎は95%以上でHCV排除が可能な経口薬による抗ウイルス療法や、B型慢性肝炎はインターフェロン療法や、核酸アナログ製剤による治療を行っています。肝細胞癌は診断や治療(化学療法や免疫療法、肝動脈塞栓療法(TAE))を放射線科と協力し行っています。その他にも、増加傾向である非アルコール性脂肪肝炎(NASH)や特殊な自己免疫性肝炎や原発性胆汁性肝硬変なども診療しています。

胆道・膵疾患に対しては、急性膵炎や急性胆管炎などの緊急疾患や閉塞性黄疸、膵癌、胆管癌などの精査・治療を行っています。胆管炎の緊急処置として、緊急内視鏡治療(内視鏡的逆行性胆道ドレナージ術)など行っています。総胆管結石などは、内視鏡的逆行性膵胆管造影(ERCP)を行い、内視鏡的乳頭括約筋切開術(EST)など行いながら、採石まで行います。必要時、経皮経肝胆道ドレナージ(PTCD)、メタリックステント留置術も行っています。

以上のように、消化器疾患を全般的に行っています。外科とも密接な連携をとることで、患者様が、より安全に、そして、より安心して治療を受けて頂けるよう心がけ、頑張っていきますので、これからもよろしくお願い致します。

当院での最近の内視鏡件数

	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年	2018年	2017年
GF	1674	1692	1861	1872	1936	1926	2051
食道ESD	9	4	2	6	5	8	7
胃ESD	40	35	38	54	32	43	51
CF	1285	1243	1260	1172	1250	1229	1288
大腸ESD	11	15	16	27	25	32	19
ERCP	244	266	294	349	275	217	226

代謝内科

代謝内科部長
守田　雄太郎(H23年卒)

代謝内科副部長
宮川　展和(H25年卒)

代謝内科では、糖尿病、代謝、内分泌疾患全般の診療を行っています。
主な対象疾患は、糖尿病や高コレステロール血症、下垂体疾患、甲状腺疾患、副腎疾患などです。

【外来診療日】

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
代謝内科	守田	守田	宮川	宮川	(再診のみ)

※新患受付は午前11時30分までです。紹介状が必要です。

①糖尿病管理

管理中の糖尿病患者数は800名以上です。管理栄養士による栄養指導、糖尿病認定看護師や糖尿病療養指導士による糖尿病療養指導を行っています。透析予防の指導、フットケアなど、個人にあわせたテーラーメードの糖尿病診療を行っています。

②糖尿病地域連携

天草地域の糖尿病連携医の先生方との2人主治医制の循環型連携を行っています。

③外来での注射剤導入、糖尿病療養指導

糖尿病療養指導士や認定看護師が、インスリンを始めとする注射剤の外来での導入のお手伝いをしています。

④糖尿病教室

隔月で糖尿病教室を開催しています。医師や糖尿病療養指導士、管理栄養士などから様々な糖尿病に関する知識をレクチャーさせて頂いております。当院かかりつけでない方や糖尿病でない方も参加可能です。

⑤天草キリシタン館ブルーライトアップ

毎年、世界糖尿病デーの11月14日を含む糖尿病週間の1週間、天草キリシタン館をブルーにライトアップしています。

※新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、糖尿病教室や天草糖尿病ウォークラリーなどのイベント、講演会は当面の間中止としております。

お問い合わせ先:metabo@amed.jp

放射線科

放射線科部長
中村　信一(H16年卒)

放射線科医師
佐々木　剛(H30年卒)

放射線科医師
原井　亮太(R2年卒)

放射線科では、CT・MRIを用いて、診断・治療に必要な画像の撮影および画像診断レポート作成を主な業務としています。そのほか、肝細胞癌に対するTACE(肝動脈化学塞栓術)、出血に対する止血術、生検、ドレナージなども行っています。本年3月いっぱいで溝尻智大先生、吉田龍也先生が異動となり、本年4月に佐々木剛先生、原井亮太先生が赴任しており、現在3名体制(放射線診断専門医1名、放射線科専門医1名、専修医1名)で勤務しています。

CT検査

Siemens社のDual Source CTであるSOMATOM Drive(Drive)およびPhilips社製の256 sliceのCTである Brilliance iCT (iCT)を用いて検査を行っています。いずれも高性能な装置です。SOMATOM Driveでは、2つのX線管球を搭載しており、2つの管球から同時に異なるエネルギーのX線を出力するDual Energy CT撮影を行うことで、椎体の新鮮圧迫骨折の評価などが可能です。また、2つのX線管球を搭載していることから、2つのX線から同じエネルギーのX線を出力することによって、短時間で画像を得る高速撮像(Drive Spiral)も可能であり、息止め不良な患者様でもアーチファクトの少ない高画質な画像を提供できます。また、冠動脈CT検査においても高い空間分解能を生かし、アーチファクトの少ない画像を提供できる様になりました。
また、金属アーチファクト低減技術(iMAR)も搭載しており、大腿骨頭置換術後の金属アーチファクトで評価不能であった骨盤部の評価(イレウスの閉塞機転など)にも寄与しています。Drive、iCTともに、低管電圧撮影を行うことで、少ないヨード造影剤でこれまでと同等の診断精度の画像を得ることが可能です。
当科では患者様の被ばく低減にも積極的に取り組んでいます。当院のCT装置は様々な病態に対して、非常に有用な情報を提供可能な装置ですので、積極的にご利用頂ければ幸いです。

MRI検査

当院では3.0T MR装置1台、1.5T MR装置1台の2台体制で運用を行っていますが、昨年度Siemens社製の1.5T MR装置であるMAGNETOM Avantoが、同じく1.5T MR装置であるMAGNETOM Solaに更新となりました。
今回導入された装置は、圧縮センシング技術;Compressed Sensing(CS)といった撮像時間短縮に役立つ技術が搭載されており、MRIの撮像時間短縮につながっています。また、GRASP-VIBEという圧縮センシング技術を応用させ、非常に高い時間分解能と空間分解能を両立させたシークエンスも備えており、部位によっては息止めなしで撮像が可能となっています。寝台も着脱可能であり、磁場の発生している環境下である検査室内に立ち入る人数を制限することが可能で、安全性の向上につながっています。
また、Philips社製の3.0T MR装置であるIngenia 3.0Tも引き続き稼働しています。
MRIには体動などのアーチファクトの影響を受けやすいという弱点もあるため、対象となる検査部位および患者様の状態により、3.0Tおよび1.5Tの機械に適宜振り分けての検査を行っています。MRI検査については、CTと異なり撮影禁忌となる体内デバイスや、目的とする病変や領域などの制約がある場合が多いため、検査内容について不明な点がある場合には、放射線科までご一報いただければ幸いです。

IVR (vascular IVR, non-vascular IVR)

2019年より、Siemens社製のIVR-CT装置が導入されました。血管造影装置およびCT装置が連動するnexaris systemを搭載しており、これまでの血管造影装置より良好な画質を得ることが可能です。(このnexaris systemを搭載したIVR-CT装置は国内一号機になるそうです)また、コーンビームCTなども可能であり、腫瘍の栄養血管の同定などに役立っています。また、CTガイド下の手技(生検・ドレナージ)においても、被験者だけでなく、術者の被ばくも低減するシステムが搭載されています。画質も非常に良好であり、手技に非常に役立っています。

その他(CT検査依頼の際の被ばく説明の必要性および被ばく説明書のご案内)

2020年の4月の医療法改正を受け、"診療用放射線に係る安全管理体制に関するガイドライン"が整備されました。患者に対する放射線診療実施前の説明方針が定められていますが、その中に「放射線診療を目的とした紹介患者については、紹介する病院等と紹介を受ける病院等の双方において正当化及び最適化、患者に対する情報提供を行うこと」と記載されています。そのため、C@rnaを含め放射線科にCTの検査依頼をいただく際にはあらかじめ放射線被ばくの説明を患者様に行っていただく必要があります。説明の補助となる資料を作成しておりますので、適宜ご活用いただければと思います。お手数をおかけし誠に恐縮ですが、ご理解の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

泌尿器科

泌尿器科部長
陣内　良映(H3年卒)

泌尿器科医師
山中　達郎(H27年卒)

泌尿器科医師
野尻　拓矢(H30年卒)

当科は天草地域医療センターにおいて泌尿器科全般と血液浄化療法を担当させていただいております。人員は3名、令和元年より陣内良映、令和5年より山中達郎、令和4年より野尻拓矢、です。

泌尿器科領域は尿路悪性腫瘍(腎細胞癌、腎盂尿管癌・膀胱癌、前立腺癌、精巣がん)のほかにも尿路結石、下部尿路機能障害、炎症性疾患の診療を行っております。

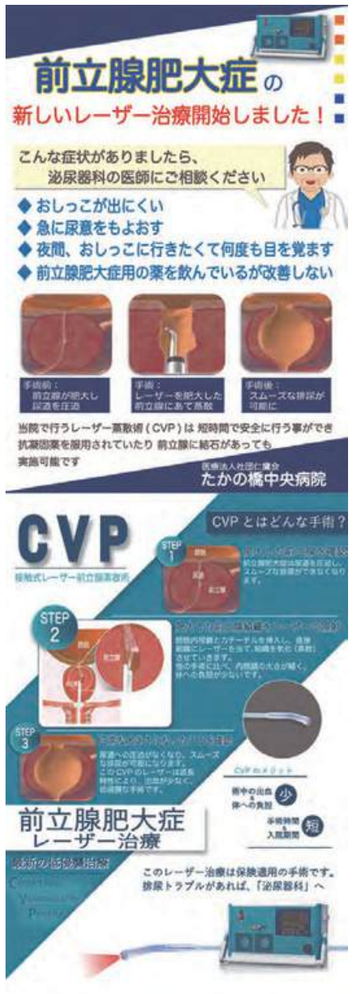
手術は基本的には水、金の週2日間。腎腫瘍、腎盂尿管腫瘍、副腎腫瘍に対する(後腹膜鏡も含めた)腹腔鏡・開腹手術や膀胱腫瘍、前立腺肥大症、尿路結石に対する経尿道的内視鏡手術を中心に行っています。特に平成30年4月より尿路結石破砕用レーザー機器を購入し、さらに昨年より最新の軟性尿管鏡(Cobra:2チャンネル)を用いて天草地域での積極的な経尿道的尿路結石の治療(TUL)が可能となりました。

手術症例数は令和4年度242例(うちTULは35例)、令和5年度246例(うちTULは34例)でした。また、男性排尿障害の外科的治療を目的に令和4年5月よりCVP(レーザーによる経尿道的前立腺蒸散術)を行っており、従来のTUR-Pに比較してほぼ出血のリスクなく同様の治療効果を得ております。

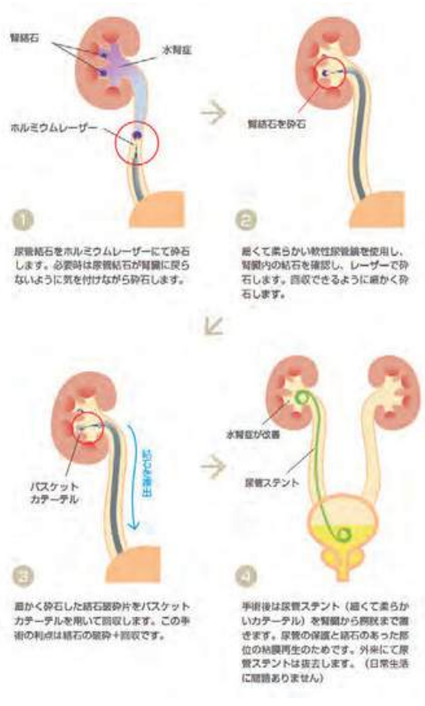
血液浄化部門では臨床工学技師4名(早井幸代室長、小崎、長野、石坂)・看護師の協力を主力に、月水金を中心に血液浄化療法を行ってます。その他内シャント造設や緊急バスキュラーアクセス造設術、シャント狭窄・閉塞に対しては緊急のPTA(経皮的血管形成術)も施行しています。急性期病院の性質上、緊急透析導入のみならずCHDF(持続的血液透析濾過療法)やエンドトキシン吸着などにも技師を中心に対応しています。

人員は3名ですが、臨床工学技師や看護師、多くのスタッフの協力を得ながら天草地域住民の患者さんに安心していただけるように努力して参りますので、開業医の先生方のご指導・ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

＜CVP＞



＜f-TUL＞



総合診療科

総合診療科部長
谷口　純一(H元年卒)

総合診療科医師(非常勤)
鶴田　真三(H22年卒)

総合診療科医師(非常勤)
松本　朋樹(H26年卒)

総合診療科は、2017年10月より当センターにて非常勤医師が外来診療を開始しましたが、2019年4月より熊本大学附属病院地域医療・総合診療実践学寄附講座より常勤医師2名が赴任し、外来,入院診療を担当させて頂いています。

当科は様々な疾患,健康問題に対して、特定の診療科,専門領域,臓器や疾病だけに係わらず、全人的に、包括的な診療を提供する事を目指している診療科です。身体などの臓器の問題なのか明らかでない、あるいは多彩な訴えや症状があり受診すべき診療科が明らかでない、といった患者さんを総合的に診療させていただきます。必要に応じて、ご紹介の病院の方で引き続き診療を継続して頂く場合、専門診療科や高次医療機関をご紹介させていただく場合、総合診療科で継続して診療させていただく場合等、出来るだけご要望にお応えする様にしております。

以下の様な方は、お気軽にご相談下さい。

・症状の原因となる臓器や異常が分からない。(倦怠感、発熱、体重減少、むくみ、様々な部位の痛みなど)
・いろいろな症状があり、どの診療科を受診すればよいか分からない。(複数の診療科が該当する場合や、複数の症状や疾患をお持ちのご高齢の方など)
・現在かかっている病気に対する相談(専門的な説明が分からない、薬や治療のことで分からないなど)
・治らない病気で困っている(がん、慢性進行性の病気、老化や疾患の今後に関わる問題など)
・健康問題での不安がある(健康診断で異常、健康問題を害する生活習慣の改善、医療サービスの利用など)

このような方で受診をご希望される方は、かかりつけ医の先生に紹介状を書いていただいて、ご予約下さい。

尚、2022年度から常勤医師1名(＋非常勤医師2名)体制となっており、十分に診療体制が整っていない状況で、ご不便おかけするかもしれない事を、どうかご容赦下さい。また、研修医や医学生の教育・研修にもご協力頂ければ幸いです。

研修医

小原　直大　　大笹　悠一郎



小児科

小児科部長 野中　俊彦(H23年卒)　小児科医師 水元　仁美(H31年卒)　小児科医師 髙橋　莉菜(R3年卒)

小児科は、3名の常勤医で診療を行っております。

一般外来は、感染症をはじめ、内分泌・代謝疾患、てんかんなどの神経疾患、アレルギー疾患、心疾患、腎疾患、先天異常など、幅広い領域の診療に対応しています。

特殊外来は以下のようになっています。

・「先天代謝異常・発達外来」：奇数月の第4水曜に変更(熊本大学小児科の三渕浩先生から、城戸淳先生に引き継ぎ)

・「腎臓外来」：偶数月の第4木曜(熊本大学小児科の仲里仁史先生)

・「小児アレルギー外来」：偶数月の第2金曜日(大学小児科の緒方美佳先生)

小児アレルギー外来では、食物アレルギーの検査・診断や、食物経口負荷試験（日帰り入院、外来）も行っております。1回3名までの初診枠となっておりますので、事前に電話予約を取っていただく必要があります。現在、熊本市内の病院での加療をお願いしている患者さんについても、当院での入院負荷試験の枠を増やすことができるように、対応を進めているところです。

当院は、天草地域で唯一小児の24時間の入院対応が可能な施設で、熊本県の小児救急拠点病院に指定されています。開業の先生方や、熊本大学病院小児科の先生方の協力を得ながら、24時間365日の小児の救急疾患に対応できるように努めております。当院では対応が難しいような、高度な医療を必要とする患者様については、熊本市内の対応可能な病院への転院を行っています。転院方法は、救急車やDrヘリなど、患者様の重症度や、日時、天候などを考慮し、より安全かつ迅速な転院搬送ができるように心がけています。

当院には、産婦人科はありませんが、他院で出生した新生児の対応が必要な場合は、当院小児科医が出向し、NICUへの入院が必要な患者の転院などの対応をさせていただいております。

小児の新型コロナウイルス感染症に関しても、2類から5類感染症に移行後も、点滴や入院などの必要な患者様については、当院で対応させていただいております。

また、発達障害（神経発達症）や児童精神領域の診療は行ってはいませんが、近年増加している、起立性調節障害や過敏性腸症候群、頭痛、腹痛など心身症と呼ばれるような疾患に対して、精査、加療を行い、学校に行けない児童の治療や相談などにも対応していきたいと思いますので、日常生活・学校生活で困っている子がいましたらご相談いただければと思います。

小児科医の構成は、他の診療科よりも若いため、地域の住民の皆様や開業の先生方にとっては、心許ないと思われるかもしれませんが、天草地域の小児の医療と健康の向上に少しでも貢献できればと精進してまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。

特殊外来

リウマチ膠原病内科

●診療日：月2～3回／土曜日・第4月曜日

●担　当：中村　正医師(S55年卒)・松木　泰憲医師(H2年卒)

「リウマチ膠原病」とは聞きなれない病名ですが、体の抵抗力を司る免疫のシステムに異常を来たし発病する全身性の病気です。その代表が関節リウマチで、日本に約80万人の患者がおり、男女比は1対4、中年女性に好発します。関節破壊は関節を包んでいる滑膜の炎症で始まり、炎症性滑膜が増殖し、軟骨・骨を破壊し、関節の変形を起こします。病変は当初は関節ですが、時間と共に肺や腎臓、眼、皮膚、心臓など全身臓器に及びます。関節の機能障害や全身合併症のために日常生活に支障を来たし、生活の質が低下、寿命も短くなります。かつて「治らない難病」と呼ばれていましたが治療法が大変革を遂げ、メトトレキサートや生物学的製剤の出現で、関節リウマチによる炎症、ひいては関節破壊を防ぐことができるようになりました。

早期に関節リウマチを診断し、適切な時期に適切な治療を行えば、日常生活を普通に送ることができます。関節リウマチ以外のリウマチ膠原病も様々な面で進歩が見られています。このような医療の進歩を地域住民が等しく享受できるように、当センターで活動しています。

消化器内科

●診療日：月2回／土曜日［熊本大学病院］

●担　当：吉丸　洋子医師(H14年卒)・田中　健太郎医師(H23年卒)

熊本大学病院消化器内科より派遣され、毎月第2土曜日と第4土曜日の午前中に勤務しております。肝臓疾患を専門とし、C型肝炎に対する抗ウイルス治療、B型肝炎に対する抗ウイルス治療、肝硬変の治療を主に行っております。また大学病院とも連携し肝臓癌の診療も行っております。熊本県は全国から見ても肝炎キャリアが多い地域です。C型肝炎、B型肝炎を放置するといずれは肝硬変、肝臓癌を発症します。まずは検診にてウイルスマーカーのチェックを行って頂き、もし陽性の場合は当科を受診されてください。キャリアの方を早期発見し、抗ウイルス治療など治療介入をすることで肝臓癌をきちんと予防することができます。また最近では脂肪肝の方でも一部の方が肝硬変に進展し、肝臓癌を発症することが知られております。検診で脂肪肝を指摘された方も是非、一度当科外来を受診されてください。天草地域の肝臓疾患の患者さんの診療に少しでも貢献できるようにこれからも頑張っていきますのでよろしくお願い申し上げます。

神経内科

●診療日：月4回／土曜日

●担　当：有馬　寿之医師(H7年卒)・植田　明彦医師(H13年卒)・原田　しずか医師(H29年卒)
水谷　浩徳医師(H26年卒)・池ノ下　侑医師(H26年卒)

神経内科は2018年より標榜診療科名が脳神経内科に変更されました。脳神経内科の外来では、パーキンソン病や脊髄小脳変性症などの神経変性疾患をはじめ、多発性筋炎、重症筋無力症などの神経免疫疾患、頭痛やてんかんなどの機能性疾患など幅広い疾患を対象としております。担当医師は熊本大学病院からの派遣であり、毎週土曜日に外来診療を実施しております。手足のしびれ、頭痛、めまい、物忘れなどの症状でお困りの患者さんの原因を特定することや診断後の内服薬管理など天草地区の神経疾患の患者さんの拠点として、毎週土曜日に診療しております。外来患者さんが多く、混み合うことがありますので、受診の際は受診時間をご確認ください。宜しくお願い致します。

血液内科

●診療日：毎週金曜日［再診のみ］　●担　当：幸　宏道医師(H14年卒)

呼吸器内科

●診療日：毎週火曜日（熊本大学病院より）・金曜日（済生会熊本病院より）

健診センター

健診センター長
高田　登（S60年卒）

健診センター（非常勤）
谷村　正憲（S51年卒）

当健診センターは、平成14年に現在の健診センターを開設し、今年で23年目を迎えます。これまで、天草地域の保健活動の拠点となるべく、行政の行う健康増進法に基づく健康診断や医療保険者・事業所等による健康診断・人間ドックを実施し、併せて保健指導を行ってきました。実施に当たっては、併設の天草地域医療センターの協力をえて、医療機関と同レベルの医療精度を保つように努力しています。近年では、特定健診とがん検診を2本の柱として健診を行っています。この数年コメディカルスタッフの減少によりマンパワー不足となり、事業の縮小が続いている状況です。最低限のコメディカルスタッフ数ですが、すこしでも収支の改善を図り、健診レベルを保つように努力していきます。

なお、日曜の健診は下記のとおり、6月～12月まで行う予定です。多くの先生方のご利用をお待ちしております。

6月23日、9月8日、11月17日、12月8日



退任医師





脳神経外科医師
出来田　祐治



外科医
内藤　貴一



放射線科医師
溝尻　智大



放射線科医師
吉田　龍也



循環器内科医師
西　雅人



循環器内科医師
出来田　美和



消化器内科副部長
中垣　貴志



整形外科医師
髙木　寛



小児科医師
濵　里奈



研修医
松木　崇



研修医
糸井　秀彰



研修医
宇原　寛達

新任医師のご挨拶





脳神経外科医師
斎藤　大嗣
平成30年卒

今年度より脳神経外科の医師として赴任致しました斎藤 大嗣と申します。医師7年目になります。熊本市出身で、九州大学を卒業後、熊本赤十字病院で初期研修をしたのち、熊本大学脳神経外科に入局しました。天草には初期研修の地域研修の際にお世話になって以降、天草の海が好きで度々訪れるようになりました。天草の医療、脳神経外科診療に貢献できるよう日々精進していく所存です。まだまだ若輩者で何かとご迷惑おかけすることもあるかと思いますが、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い致します。



外科医師
白石　裕大
平成27年卒

本年度より天草地域医療センターに勤務させていただくことになりました外科の白石裕大と申します。出身地は八代で久留米大学を卒業後、医師としては10年目になります。昨年度までは熊本大学で大学院生として研究をしておりました。天草の地は初めてですが、みなさんとても温かくすでに居心地の良さを実感しております。この天草の地域医療に貢献できるように励んで参りますので何卒よろしくお願い申し上げます。



放射線科医師
原井　亮太
令和2年卒

2024年4月より放射線科に赴任いたしました、原井亮太と申します。
京都府出身で、熊本大学医学部を卒業した後はくまもと県北病院で2年間初期研修を行い、熊本大学画像診断・治療科に入局して3年目となります。昨年は天草中央総合病院で1年間勤務していましたので、天草に来て2年目となります。未熟者でご迷惑をおかけすることも多々あると思いますが、引き続き天草という素晴らしい土地の医療に貢献すべく、努力して参りますので、よろしくお願いいたします。



循環器内科医師
松田　崇秀
令和3年卒

4月より天草地域医療センターで循環器内科として勤務させていただきます、松田崇秀と申します。出身は熊本で、熊本大学を卒業し、現在は医師として4年目になります。天草に住むのは初めてですので美味しいご飯や自然を楽しみながら天草の地に慣れたいと思います。まだまだ未熟者ではございますが、天草の医療に貢献できるよう精一杯頑張りたいと思いますので、何卒よろしくお願い致します。



整形外科医師
富野　航太
平成31年卒

今年度より勤務させて頂くことになりました整形外科4年目の富野航太と申します。熊本大学卒業後は大学病院、熊本医療センター、熊本再春医療センターで勤務させて頂いておりました。出身は長崎県佐世保市で、今回転勤で初めて天草の地を訪れました。まだまだ未熟者で至らない点が多々あるかと思いますが、天草地域の医療に少しでも貢献出来るように日々精進していきたいと考えておりますので、何卒宜しくお願い申し上げます。



放射線科医師
佐々木　剛
平成30年卒

天草地域医療センター放射線科に赴任しました佐々木剛です。医師7年目で、この3月までは熊本大学病院に勤務しておりました。天草の自然も天草地域医療センターもとてもいい環境だと感じており、ここで働けることを嬉しく思っています。画像診断やIVRを通して天草での医療に貢献できるよう精進して参ります。どうぞよろしくお願いいたします。



消化器内科医師
河野　亮介
平成31年卒

今年度より赴任しました消化器内科の河野(こうの)亮介です。育ちは宮崎で、熊本大学を卒業し、医師として6年目になります。昨年度は熊本赤十字病院で勤務しておりました。
大学生の頃から天草には頻繁に訪れており、天草で暮らすのをとても楽しみにしておりますう。1歳の娘がおりますので、子育てに関する事やお出かけ情報など教えていただけると嬉しいです。
消化器内科医として、少しでも天草の医療に貢献出来るよう、日々精進して参りますので、何卒よろしくお願い致します。



小児科医師
髙橋　莉奈
令和3年卒

今年度より天草地域医療センターの小児科で勤務させていただくことになりました髙橋莉奈と申します。医師として4年目で、小児科の専攻医として修行中の若輩者ですが、少しでも天草の医療に貢献できるよう日々努めてまいります。出身は人吉市で盆地でしたので、海のある場所に憧れがありました。しっかり勤務に勤めながら、天草での生活を楽しみたいと思います。何卒、よろしくお願い致します。



新人スタッフ・看護師



薬剤師

坪田　寛乃

放射線技師

近野　雄琉

放射線技師

諫山　朋香

放射線技師

甲斐　俊貴

臨床検査技師

白石　菜津美

社会福祉士

医療福祉連携室
將基　聡

事務部

嶌田　千春

理学療法士

地域包括支援センター
井上　智博

看護師

3階南病棟
赤城　星那

看護師

2階病棟
竹本　尊

看護師

3階北病棟
田中　のの

看護師

3階北病棟
丸谷　望美海

看護師

健診センター
宇土　亜樹奈

准看護師

4階南病棟
澤井　美来



今年度より救急救命士としての業務を始めました

救急救命士　平井 美里

令和6年4月1日から外来で救急救命士として勤務させていただけることになりました。

主な業務内容は、救急患者の受け入れ準備やバイタル測定、各検査へ案内や12誘導心電図の実施、カルテ記載や検査問診等です。

毎日いろいろなことを指導いただき、早く業務内容を覚え少しでも役に立ちたいという気持ちです。今まで看護助手として勤務しておりましたが、その時より直接患者さんに触れることも増え、やりがいを感じる場面もあります。しかし、自分が行った行為で患者さんに痛みを与えてしまったり、負担をかけさせてしまうという責任の重さを感じる場面もあり、患者さんの対応をする際は身が引き締まります。失敗もあると思いますが、救急救命士としてできることはしっかり行えるよう日々努力していきたいです。



熊本県キャリア支援事業

令和６年 看護職キャリア支援事業研修
所属：熊本大学病院　看護部 西島 真知子

本年４月より看護職キャリア支援事業研修の一環で熊本大学病院より研修に参りました。今までは移植コーディネーターとして肝臓移植の看護に長きに渡り関わってきました。今回、大学病院では経験する機会が少ない慢性期・回復期から在宅医療までの一連の看護を学び、地域医療に貢献できればと考えております。

天草は大変住みやすい場所と聞いておりますので、仕事も天草生活も充実出来ればと思っております。１年間という短い期間ですが、どうぞ宜しくお願いいたします。

編｜集｜後｜記

新年度になって、あっという間に2ヶ月が経ちました。当センターでも、医師をはじめ様々な職種の新しい職員を迎えることが出来ました。私も、新入職員の時代は、全てが初めての事ばかりで悩み、失敗することも多々ありましたが、先輩方の御指導のおかげでなんとか成長することが出来ました。そんな私も、現在では後輩職員に指導する立場となりましたが、つくづく「人に教えるという事の難しさ」を痛感しています。当たり前かもしれませんが、自分自身が正確に理解していないと、間違った内容を教えてしまう事に繋がってしまいますので、私自身でも再度確認・勉強しながら慎重に指導するよう努めております。

今回ご紹介させていただいた「院内での救急救命士の業務開始」と「看護職キャリア支援事業研修」の2つは、当センターにおいて新しい取り組みとなります。そして、院長のあいさつ文内にも書いておりました通り、現在、ホームページの刷新とSNSの開設も計画しております。この様に今後も様々な新しい取り組みを行いながら、日々努力してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

文責：新聞広報委員　清田　千草